

令和4年5月に名古屋で六段に昇段致しました、瀧沢一子です。剣連の先生方、皆様の熱いご指導に深く感謝申し上げます。努力しても実は結ばないのかと思った時もありましたが、やはり稽古はウソをつかない、継続は力なりと感じました。

昇段する為にいつも通りの稽古をし、特別な事はしませんが、心掛けた事は、

- ① 基本稽古を疎かにしない、寧ろ重きを置く。これは技の完成度を高める為に必要でした。苦手だった技も出来る様になりました。
- ② 形は審査の前だけでなく、出来る限り毎日やる。剣道形だけでなく、基本技稽古法もやりました。その中で、集中する事、自分の気を練る事、相手と気を合わせる事を常に考えました。重みと深みのある形に少し近づけた気がします。
- ③ 一刀流の切り落とし稽古を続ける。重い木刀を切り落とす事によって、面のスピードと強度を求めました。軸のぶれない振りを目指していますが、これはまだまだ未熟です。

当日の審査にたいしては、焦らず、よく視て思い切りと言いついて聞かせて望みました。

相手は2人共男性で、1人目面2本、2人目返し胴と出小手を打ちました。もっと本数は打っていると思いますが、記憶にあるのはこれだけです。でも、審査を終えて退場する時に、やり切った感あり、何となく清々しい気持ちで戻りました。合格する時は、こんなものなのだなどと後から思いました。

大好きな剣道ですから、これからも身体の動く限り稽古は続けます。そして少し

つつでも進化、上達し、極めて行きたいと思います。

先生方、皆様、今後ご指導どうぞよろしくお願い致します。

R4.6.8